

「ひのみどり」の早刈り栽培は畳表の強度が明らかに低下する

いぐさ優良品種「ひのみどり」の収穫適期は7月5日から15日である。早刈り栽培をすると、いぐさの茎の引っ張り強度低下や畳表の摩耗が多くなり、畳表の強度が低下する。

農業研究センターい業研究所加工研究室(担当者:森崎和義)

研究のねらい

優良品種「ひのみどり」の収穫適期は7月5日から7月15日として普及が図られているが、作付け面積の拡大とともに収穫時期が早まってきている。

そこで、「ひのみどり」の早刈りが、原草及び畳表品質に及ぼす影響を明らかにする。

研究の成果

1. 早刈り栽培では、普通刈り栽培に比べて茎の引っ張り強度が低下する(図1)。
2. 早刈り栽培では、普通刈り栽培に比べて茎が太くなり、品種の特性が損なわれる(図2)。
3. 早刈り栽培では、普通刈り栽培に比べて部分変色茎が増加する(図3)。
4. 早刈り栽培では、普通刈り栽培に比べて硬度が低下する(図4)。
5. 早刈り栽培では、普通刈り栽培に比べて原草及び畳表の摩耗強度が低下する(図5, 6)。

普及上の留意点

1. 「ひのみどり」の早刈り栽培は品質を低下させるので、品種特性を維持するため適期(7月5日~15日)に収穫するように肥培管理を行う。
2. 本試験は早刈り6月27~28日、普通刈り7月7~10日の収穫のいぐさを使用したものである。

【具体的データ】

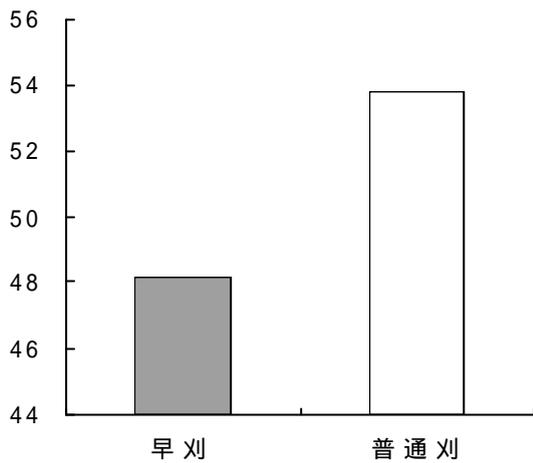


図1 茎の引っ張り強度 (kg)

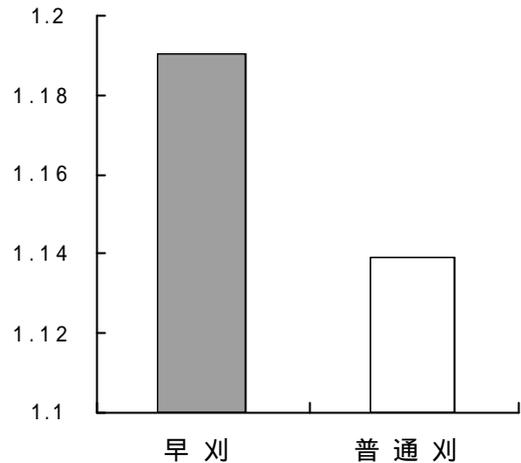


図2 茎の太さ (mm)

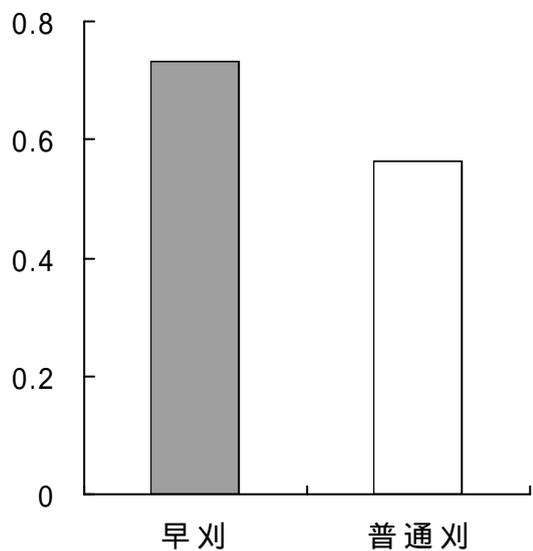


図3 部分変色茎発生率 (120cm以上、%)

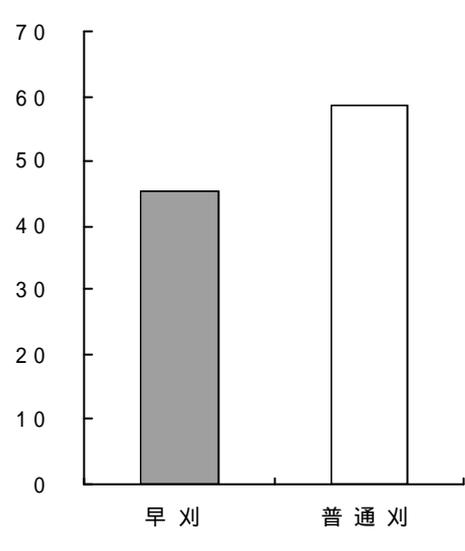


図4 硬度

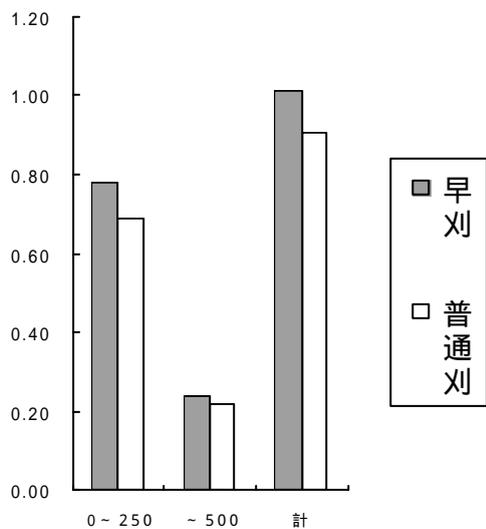


図5 茎の摩耗量 (mm)

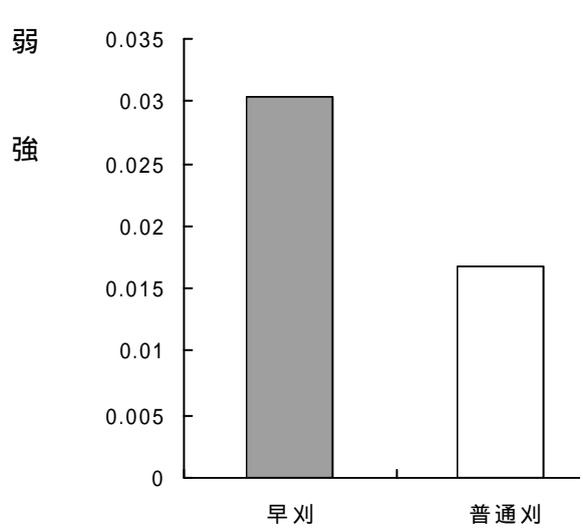


図6 置表の摩耗量 (中央部、500回当たり、mm)